



垣良夫副院長が、一般演題「農業労働と健康(2)」の座長となり、ワークショップ

では「JA長野厚生連における特定健診・特定保健指導の課題」という演題で講演された。また、シンポジウムでは(以下敬称略)浅沼信治(日本農村医学研究所)、永美大志(健康管理部研究員)、ワークショップでは今井靖(地域ケア科宅老所やちほの家)、村上穰(腎臓内科)、一般演題では、菊池環(DMATチーム)、佐藤栄一(救命救急センター)、山田みゆき(美里分院)、山本亮(総合診療科)、細井泰子(診療情報管理科)、前島丈夫(健康管理センター)、中澤あけみ(健康管理センター)、柳澤和也(地域健康管理科)、永美大志(健康管理部)、中村健(形成外科)、伊井友子(脳神経外科)、白田誠(日本農村医

学研究所)、吉田明希(小海分院)の18名が発表を行った。

2日目の教育講演では、「自分たちで生命を守った村」として知られる沢内村の国保沢内病院元院長の増田進先生の講演と、乳児・老人医療費無料化、乳児死亡ゼロを達成したことで知られる深沢晟雄元沢内村長の精神を受け継ぐ現代の若者を描いた作品の上映があり、農村の保健医療活動の原点を知り、その歴史に触れることができた。

来年は岐阜県の長良川国際会議場岐阜都ホテルで開催される予定である。

(小海分院 吉田亜希)

去る11月13日、全国農業安全活動発表集会および

日韓合同シンポジウム

発表集会および

農業事故とドクターヘリについて報告する夏川経徳院長



農業事故について、は、長年問題視されており、今年5月に、日本農村医学会、全国農業協同組合中央会をはじめ農協関連の全国協議会、並びに農水省も参加して「全国農業事故防止対策連絡協議会」が設立された。

全国農業安全活動発表集会には全国から選りすぐりの演者が、それぞれが専門とする農業事故の研究の成果を発表し、意見交換を行なった。

また、日韓合同のシンポジウムでは、農水省、日本農業新聞、韓国農民新聞記者、農機メーカー、農作業事故受傷者と、多方面のパネラーが参加し、今後の農業安全への取り組みや提言をし、農作業事故撲滅に向けた盛岡宣言が承認され

た。

この集会によりはじめて、全国のさまざまな機関・組織・団体・個人が個々に所有していた農業作業を安全に行うための情報が共有化され、有効な事故対策ネットワークの確立がされると思われる。

現在、当院では、農水省から受託した「農村高齢者のための健康支援推進事業」として、100歳まで農業を通じていきいきと暮らせるよう支援事業を行っている。高齢者にも安全な農業環境の整備が期待される。

(地域健康管理科 高橋優文)

### 「故人を偲ぶ会」開催

今年度で4回目になる

「地域ケア科 故人を偲ぶ会」が10月23日に、あいと



びあ白田の大ホールにて開催された。平成21年度内にお亡くなりになられた利用者様のご遺族35家族47名と、昨年度当会に参加されたご遺族5名にもボランティアとして参加していただいた。晴天に恵まれたやわらかい日差しが差し込む中での開催となった。

会場は、朝からの準備でフラワーアレンジメントや

ほおずきのコサージュなど季節感いっぱい、レアウトとなり、訪問看護先のご家族のご好意でお借りした竹細工を展示するなど、手造り感のあるあたたかい雰囲気を作り出すことができた。

参加者の方々にはそれぞれにさまざまな経過と、込められた思い、ご家族を亡くされたからの悲しみや葛藤もあったと思われるが、治療、看護を担当させていただいたスタッフとのなつかしい再会を喜んでくださり、共に故人を偲んで語り合うことで、感激したり、笑ったり、涙したりと、よい時間を共有することができた。

代表のご遺族の方数名に

お話をいただく場面でも、故人への深い思いが伝わってきた。そのなかで、病院長の発言を、伊澤院長がしっかりと聞きいれてくださる場面もあった。

参加されたご遺族の方からたくさんの感謝の言葉をいただき、胸を熱くしている。「同じような立場の方とお話しでき有意義だった」という意見も聞かれた。今後もさらに検討を重ね、グリーフケアを継続し、ご遺族と職員のつながりを大切にしていきたい。(ST)うすだ 井出美由紀

## OSCE行われる

今年も1年目初期研修医を対象にしたOSCE(Objective Structured Clinical Examination)が9月29日に行われた。OSCEとはObjective Structured Clinical

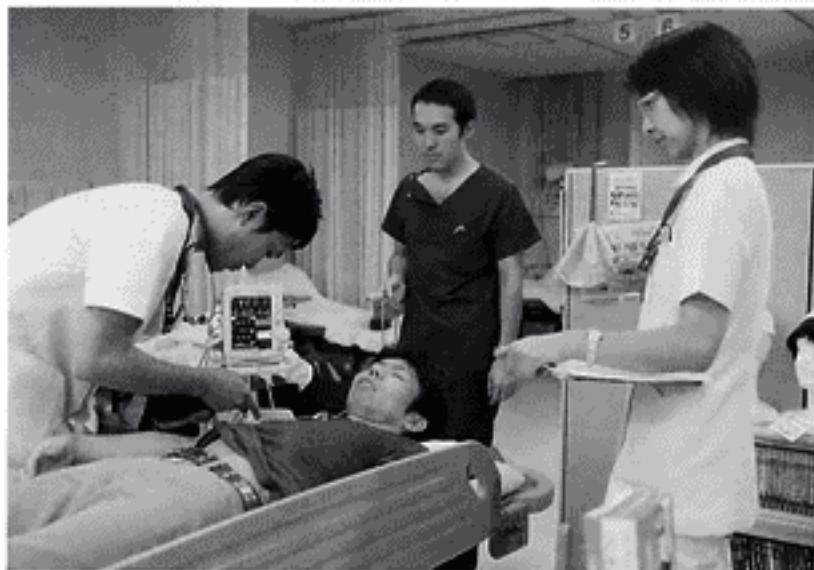
(Examination)客観的臨床能力試験)の略であり、医学的知識だけではなく判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を適正に評価する方法として、日本でも近年積極的に用いられている。

佐久病院ではOSCEを平成11年から毎年、1年目研修医、2年目研修医を対

象としてそれぞれ実施している。

今回は、バイタルサイン、心電図、医療面接、頭部CT読影、ルート確保、喘息の治療が試験問題で、それぞれに出題された出題者のねらいがあった。

実際に受けてみると、バイタルサインではGCSを正確に評価できず、心電図は診断まで辿り着かず、医療面接では主旨から外れたことに時間を費やし、頭部CT、ルート確保、喘息の治療もなかなかできず、苦笑するしかない結果だった。しかし、改めて振り返ると設問自体、難解というわけではなく基礎的内容で、それぞれブースで基礎ながらも抜け落ちていたところ、



自分の課題を見つけること  
のできた貴重な機会であつ  
た。同期の研修医も同様に  
感じていたようだ。

（初期研修医 表真由子）

最後に忙しい中、準備し  
ていただいた先生方、多数  
の職員の方々、ありがとう

## 今月の作品「七五三」

11月20日  
佐久市新海神社



とおりゃんせ とおりゃんせ・・・この子の七つのお祝に・・・。おもいお  
もいの願いを込めて、千歳飴片手に、ハイ、ポーズ。パチリ。

Canon F4 1/250秒 秘書広報課 北村裕子

## 第10回 美里分院文化祭開催

第10回美里分院文化祭が  
10月末に開催された。患者  
さんと職員の作品展は27日  
からの先行開催とし、院内  
外の団体に協力いただいて  
いる模擬店、メインイベン  
トである楽団ブルーフェニ  
ックスを迎えてのバンド演  
奏は30日に開催された。

当日は、文化祭実行委員  
会の必死の願いもむなしく、  
佐久地方では台風と前線に  
挟まれて朝から大雨となっ  
てしまった。しかし、会場  
係の知恵と工夫で快適な会  
場設営ができ、開催するこ  
とができた。

開会式には来賓として夏  
川統括院長をお迎えして挨拶  
をいただき、各模擬店か  
らの挨拶を兼ねたPRタイ  
ムの後、記念のくす玉割り  
をして文化祭がスタートし

た。文化祭10回記念として、  
綿あめが10円で提供される  
など、どの模擬店にもぎわ  
いを見せ、大変好評のうち  
に終了することができた。

患者さんの誘導と模擬店  
の運営には院内ボランティア  
アと学生ボランティアの皆  
さんの活躍があり、準備、  
当日の運営には文化祭実行  
委員会のまとまりがあった。

関係各所の協力により、  
にぎやかでとても充実した  
ものとなりました。ご協力  
いただいた皆様、ありがと  
うございました。

（美里分院 畠山富子）

